

ヨコハマ発祥新聞

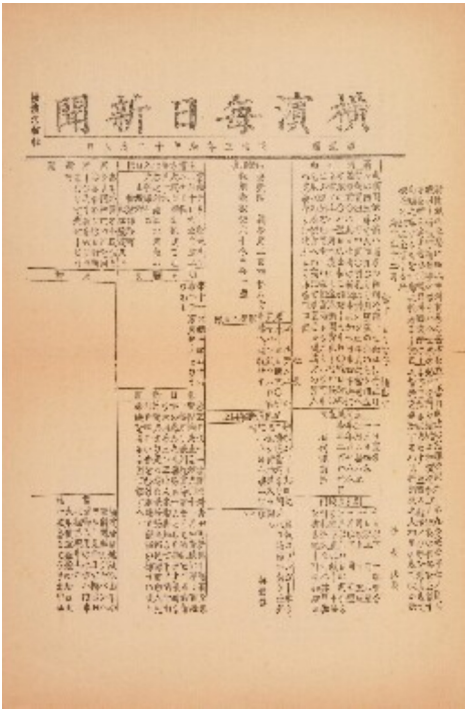
横浜は安政6年6月2日に開港し、人や海外情報、文化の流入拠点となりました。横浜が日本初となったものがたくさんあります。この特別紙面では、そうした「ヨコハマ発祥」をまとめました。特別紙面は、ニュースパーク（日本新聞博物館）Ⅱ中区日本大通Ⅱが6月2日開催の「第41回横浜開港祭2022」に協力し、製作しました。

日刊新聞

明治3年12月8日、日本初の日本語日刊紙「横浜毎日新聞」が横浜で創刊されました。これにより、横浜は「日刊新聞発祥の地」と呼ばれ、みなとみらい線・馬車道駅を出た現在の横浜市庁舎敷地内に記念碑が建てられています。ニュースパークは、この日刊新聞発祥の地・横浜に2000年10月に開館しました。

派遣を受けて、元幕府横浜洋書検閲官・子安峻とともに発行にあたらせました。創刊当初は木活字でしたが、和紙本版刷りの全盛時に鉛活字を使用し、洋紙1枚・両面に刷られた刊行物は、近代型新聞の誕生を告げる画期的なものでした。

「横浜毎日新聞」は、当時の神奈川県知事・井関盛良が、新聞の力を国民の開化発展に利用すべきと考え、近代活版印刷の祖・本木昌造に相談し、活字作りの弟子の復刻版が展示されています。1面には、発刊の趣旨のほか、購読料や引札値段附（広告料）、両替相場、船舶出入、国内外のニュースなど、多様な記事や広告が掲載されています。



ニュースパークが所蔵する「横浜毎日新聞」第1号（復刻版）Ⅱ原紙は国立国会図書館所蔵

第41回横浜開港祭2022 特別紙面

テニス

日本で初めてテニスが行われたのは明治9年、横浜市中区山手町にある山手公園だったと言われています。明治11年には日本最初のテニスクラブが誕生。この公園を運営する横浜市は平成10年にテニス発祥120周年を記念して、山手公園の中に「横浜山手・テニス発祥記念館」を設立しました。山手公園の入り口には、「日本庭球発祥之地」と書かれた記念碑が建てられています。

アイス

日本人で初めてアイスクリームを製造したのは町田房造で、明治2年に馬車道通りの常盤町5丁目に開いた氷水店で販売したとされています。日本アイスクリーム協会は5月9日を「アイスクリームの日」としています。馬車道商店街では同日を中心に記念イベントを開催しています。



明治時代の風味をイメージしたタカナシ乳業(本社・横浜市旭区)の横浜馬車道あいす(写真はカスタード)＝タカナシ乳業提供

ビール

明治2年、日本で最初のビール醸造所が開設され、翌年、ノルウェー出身のアメリカ人ウィリアム・コーブランドがスプリングバレー・ブルワリーを設立。山手・天沼（現在の横浜市中区の北方小学校付近）



の豊かな湧き水を使い、日本で初めて継続的にビールを製造しました。「天沼ピヤザケ」と称して評判を呼び、東京や神戸、長崎にとどまらず、遠く上海に輸出されました。後に施設はジャパン・ブルワリーに引き継がれ、明治21年に初代「麒麟ビール」＝写真＝が発売されました。

和英辞典

医師としての活動や「ヘボン塾」での英語教育で知られるジェームス・カーティス・ヘボンは慶応3年、日本初の和英辞典「和英語林集成」を完成させ横浜で発行しました。巻末には英和の部分もあり初版の日本語の見出し語数は2万772語、英語の見出し語数1万30語、和英の部550ページ、英和の部132ページから成っていたといひます。

最初の横浜駅があった、現在の桜木町駅の近くに建てられている「鉄道発祥の地」の記念碑



鉄道開通

明治5年9月12日（新暦10月14日＝鉄道の日）、日本初の鉄道が東京の新橋（汐留）から横浜（桜木町）まで開通しました。イギリス製の蒸気機関車が客車をひいて走り、所要時間は53分、旅客運賃は上等1円12銭5厘、中等75銭、下等37銭5厘でした。午前4往復、午後5往復の列車が運転され、途中、品川と川崎、鶴見、神奈川の4か所に停車場（駅）が設けられました。

《注》この新聞の記事の執筆にあたっては、ニュースパーク所蔵資料のほか、横浜開港資料館・読売新聞東京本社横浜支局共編『横浜150年の歴史と現在―開港場物語―』（2010年発行・明石書店）▽BS朝日「にほん風景遺産、横浜・開港物語」（2013年5月21日放送）▽ウェブサイト「二ヶ領散歩道『横浜が発祥地巡り』」などを参考にさせていただきました。

ナポリタン

大人も子どもも大好きなスパゲティナポリタンも、横浜が発祥とされています。

昭和2年の開業直後から欧米人に評価され、イギリスの映画俳優チャールズ・チャップリンや、アメリカのプロ野球選手ベープ・ルースらも訪れたホテルニューグランド（中区山下町）。戦後、進駐軍が接収すると、

連合国軍総司令部（GHQ）の最高司令官ダグラス・マッカーサーは横浜の宿舎をここに定めました。パリのホテルから招かれた初代総料理長サリール・ワイルや歴代のシェフたちによって、今日も親しまれている洋食メニューが、次々と生み出されました。

パスタにケチャップをかけて食べる進駐軍アメリカ兵の様子が、スパゲティナポリタン誕生のヒントになったようです。

ガス灯



明治5年、大江橋から馬車道、本町通りにかけて、日本で初めてガス灯がともらし

た。高島嘉右衛門の横浜ガス会社フランス人技師を招き、伊勢山下石炭蔵跡に工場を建設。民間の事業として、ガス灯の設置に取り組みました。馬車道通りには今もたくさんのガス灯が設置されています。

馬車道通りには今もガス灯がともら

「情報の森」冒険のために

ニースパーク（日本新聞博物館）は、日刊新聞発祥の地・横浜にある情報と新聞の博物館です。デジタル化の急速な進展で大量の情報があふれる今、私たちには情報を見きわめる力が求められています。2022年3月からの新展示では、たくさんの情報があふれる様子を、情報がうっそうと茂った「情報の森」に見立て、その中を冒険するのに必要な心構えを、冒険のアイテムなどの形で紹介していきます。私たちが情報とどのように付き合っていけばいいのか、新聞の歴史と現代の情報社会の両面から、展示と体験を通じて学べる施設です。

◆「情報社会と新聞」

現代に生きる私たちは、たくさん情報に囲まれた「情報森」を暮らしていると云えます。デジタル技術で人と人の新しいつながりが生まれる一方、間違った情報や正確な情報もあふれています。

当館展示では、「情報タイムトンネル」で急速な情報化の進展を体感、うわさ話などの

高めます。その上で、「情報森」を冒険するために必要な心構えを、情報リテラシー教育やメディアの専門家から「盾」「スコープ」「ひかり球」「なかま」という形で案内します。

「現代の新聞とジャーナリズム」では新聞の役割と新聞記者の仕事を紹介します。

◆「新聞のあゆみ」ゾーンで
「新聞のあゆみ」ゾーンでは、所蔵資料20万点のうち、新聞の創刊号や新聞製作機材など約200点を展示しています。明治時代に誕生した日本の新聞は、百数十年にわたり、人々にいち早くニュースを伝え、政治や社会のあり方を問い続けてきました。大正時代の産業としての発展や戦争時代の言論統制、戦後の再出発など、歴史とともに新聞があゆんできた道のをご紹介いたします。確かな情報の大切さと新聞の役割を歴史から考えるゾーンです。報道機材（カメラ、ワープロ）、ポストター、チラシ、記者証、原稿・写真を運んだ伝書鳩なども展示しています。

すべての人の
学びの場

当館は、N I E (Newspaper in Education=教育に新聞を)の取り組みを念頭に置き、学校教育との連携に力を入れています。

◆「新聞を知ろう」

「新聞を知ろう」ゾーンでは、新聞がどうやって作られて、届けられているかを知り、新聞の魅力や面白さに出合うことができます。「新聞が届くまで」コーナーでは、さまざまな体験型展示とともに新聞社の日々の仕事を解説しています。新聞配達シミュレーションゲームや輪転機の速さに挑戦するゲームなど、楽しく学ぶ仕掛けがたくさんあります。

歴史と現代から学ぶ
情報と新聞

◆横浜タイムトラベル

横浜港周辺の街並みを再現したジオラマにタブレット端末をかざすと、過去へとタイムスリップ。新聞記者になって、ペリー来航と日米和親条約の締結、山下公園や日本大通りの誕生といった開港地・横浜をめぐる秘密を取材で解明していきます。取材結果は

A3判の新聞となり、持ち帰ることができます。

◆マイ新聞づくり

製作工房では、オリジナル新聞作りを毎日実施しています。90文字の記事とその場で撮った写真を組み込めば、世界に一つだけの新聞が完成！来館記念に持ち帰ることができます。このほか、「パソコンで新聞づくり」「新聞レクチャー」「取材クルーズ」と

また、イベントルームではさまざまなテーマで、新聞を使ったワークショップやイベントを実施しています。興味のある題材をもとに、楽しく新聞について知ることが出来ます。イベント開催情報は、当館のウェブサイト(<https://newspark.jp/>)をご覧ください。ぜひご参加ください。

新聞配達ゲーム



ニュースパーク
日本新聞博物館

情報と新聞の博物館です。歴史と現代の両面から、確かな情報の大切さと新聞の役割を紹介しています。SNS時代の情報との接し方を楽しく、実践的に学べます。



《入館料》

一般400円、大学生300円、
高校生200円、小中学生以下無料

《開館時間》

10:00～17:00（入館は16:30まで）

横浜市 中区 日本大通11

横浜情報文化センター

電話045-661-2040 <https://newspark.jp/>



みなとみらい線「日本大通り駅」
3 番情文センター口直結
ＪＲ・横浜市営地下鉄「関内駅」
から徒歩10分
横浜市営バス「日本大通り駅県庁
前」から徒歩1分

こんなにあったよ

横浜が最初

塗装業発祥の地	嘉永	6年
日米和親条約締結の地	嘉永	7年
ホテル発祥の地	安政	7年
写真開祖の地	万延	元年
西洋野菜	万延	元年
パン発祥の地	万延	元年
開国後最初のカトリック教会	文久	元年
クリーニング発祥の地	文久	元年
近代競馬場発祥の地	文久	2年
日本洋裁業発祥の地	文久	3年

西洋目薬
 近代街路樹発祥の地
 日本最初の和英辞典
 アイスcream発祥の地
 西洋理髪発祥の地
 西洋料理店（レストラン）
 鉄のトラス橋発祥の地
 電信創業の地
 灯台局発祥の地
 日本最初のビール醸造の地
 日本吹奏楽発祥の地
 乗合馬車発祥の地
 君が代発祥の地
 近代下水道発祥の地
 女子教育機関
 西洋歯科医学勉強の地
 西洋式劇場
 日刊新聞発祥の地
 日本ガス事業発祥の地

[illegible]

洋式公園発祥の地	明治	3年
日本野球初の試合	明治	4年
ガス灯発祥の地	明治	5年
鉄道発祥の地	明治	5年
西洋瓦製造工場	明治	6年
石鹼工場発祥の地	明治	6年
日本バプテスト発祥の地	明治	6年
金星太陽面経過観測	明治	7年
外国郵便創業の局発祥の地	明治	8年
日本メソヂスト	明治	8年
日本テニス発祥の地	明治	9年
機械製氷発祥の地	明治	12年
ヒマラヤ杉初植栽の地	明治	12年頃
警察署	明治	15年
西洋医科歯学発祥の地	明治	15年頃
近代水道発祥の地	明治	20年
電話交換創始の地	明治	23年
消防救急発祥の地	消防車	大正 3年
	救急車	昭和 8年